

さんぽみち

鶺鴒の木地区地域情報紙
平成17年7月1日号 第42号

発行：わがまち大田鶺鴒の木地区推進委員会

編集：鶺鴒の木地区 地域情報紙編集委員会

事務局：鶺鴒の木特別出張所 電話(3750)4241 FAX(3750)2418



春の受賞者

おめでとうございます。

(順不同・敬称略)

【警視総監賞(防犯栄誉)】

南久が原一丁目町会 平川 漢夫

【田園調布消防団消防操法審査会
準優勝】

田園調布消防団第三分団

夏休みの行事

夏休み期間中の、各町会の行事を
ご紹介します。日程等は予定のため
詳しくは各町会にお問い合わせくだ
さい。

【鶺鴒の木東町会・鶺鴒の木西町会】

鶺鴒の木八幡神社のお祭り・九月十
日～十一日

盆踊り・八月二十日～二十一日

【鶺鴒の木二丁目町会】

鶺鴒の木祭り・七月十七日～十八日

御嶽神社のお祭り・九月十七日～
十八日

銀嶺会商店街の盆踊り・八月二十
四日～二十五日

【鶺鴒の木三丁目町会】

鶺鴒の木祭り・七月十七日～十八日

御嶽神社のお祭り・九月十七日～
十八日

盆踊り・七月二十六日～二十八日

鶺鴒の木特別出張所 所長着任あいさつ

四月一日より高月前所長の後任とし
てまいりました、中原賢一と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

「鶺鴒の木」の地名は、鶺鴒がたくさん
繁殖する「鶺鴒の森」があったことが由
来だとか。その他、出張所近くにある
人のために尽くした美しい娘に由来す
る「ぬめり坂」など、歴史やゆかりを
感じる地域です。ひとつの地名でその
「まち」のイメージが生まれます。

しかし、もっと大切なことは、その
土地に暮らした歳月、また思い出や工
ピソードがその人をかたちづくること
にあると思います。地名は、その人に
とって何ともいぬ響きを持っていま
す。「ふるさと」とは、そのような生
活の実感が背景にある、言い知れぬ懐
かしさであるとも思います。

これから、様々なところや行事など
地域の方々との「出会い」を大切にし、
この「鶺鴒の木」がふるさとと感じられ
るよう力を尽くしていきたいと思いま
す。

【千鳥南町会】

盆踊り・八月二十日～二十一日

【千鳥北町会】

商栄会納涼大会・八月二十七日～
二十八日

【南久が原一丁目町会】未定

みんなを守る！「こどもSOSの家」

東調布第三小学校 PTA会長 高桑米彦

近頃、子ども達に関わるニュー
スをよく目にします。地域の子
ども達の身を守るために発足し
た「こどもSOSの家」。第三
小学校の管内でも多数のご協力
をいただき、多くの所でステッ
カーを目にできるようになりま
した。五年目を迎える今年、再
確認の意味をこめて子ども目
線で「すぐステッカーは目に付
くか、いざという時に家に入れ
てもらえるか」また、ステッカ
ーを貼る責任者として「突然子
どもが飛び込んできたらどう対
すればよいか、連絡はどう取る
のか」ステッカーを貼る意
味合いを今一度確認し合えれば
と思います。これからも地域の
皆様のご協力をお願いします。

嶺町小学校 PTA会長 森田光一

平成十三年の夏に、大田区の
事業として「こどもSOSの家」
が開始され、早四年が過ぎよう



このマークだよ。覚えておいてね！

としています。子どもたちが安
全に安心して伸びやかに成長し
ていく姿を見るにつけ、協力員
としてご賛同いただいた方々へ
深く感謝いたしております。ど
うぞこの運動にご理解・ご協力
をいただきまして、さらなる一
枚のステッカーがより多くの子
どもたちを守り、ひいては地域
の犯罪の抑止力となり、安全な
街を築いていくことを願ってお
ります。

千鳥小学校 PTA会長 澄野華代子

「これを見ると安心する」

鶺鴒の木特別出張所管内の人口

男	10,690人
女	11,360人
計	22,050人
世帯数	11,206世帯

◇平成17年5月1日現在◇

編集後記

平成十三年「さんぽみち」二十
九号でもご紹介した「こどもSO
Sの家」。子どもたちが身の危険
を感じた場合に緊急に助けを求め
ることのできる場所として、地域
の皆様にご協力をいただき、
心から感謝しております。これか
らも地域の子どもの安全にご理解
をお願い申し上げます。

編集長 池田進太郎

☆情報紙に対するご意見・ご感想
などを事務局までお寄せください。

【事務局】鶺鴒の木特別出張所

電話 3750-4241

FAX 3750-2418

大森第七中学校 PTA会長 渡辺武

散歩の途中、娘が「こどもSO
Sの家」マークを見て言いまし
た。娘の通う小学校では、週に
一度保護者全員が当番で防犯パ
トロールをしています。働かれ
ている方が多いので、はじめは
いろいろありましたが、全員が
「子どもを守ろう」との思いで
す。地域の方々も腕章をつけて
ご協力いただき、心強さと温か
さを感じました。地域で守る、
子ども達の心に安心感を与える、
大切な運動だと思っています。

全国各地で「SOSの家」あ
るいは「こども110番」など
の名称で、子どもを守る運動が
行われています。今から五、六
年前、大田区ではそれぞれので
域や学校単位で独自のステッカ
ーを作成して取り組んでいました。
当時、大田区全体のPTA組織
で話し合い、区内統一ステッカ
ーの必要性を区長に訴え、現在の
「こどもSOSの家」が実現し
ました。実際に子どもが駆け込
むようなことがないのが理想で
す。そのためにも、地域全体で
防犯の意識を持つことが重要だ
と思います。

地域とともに子どもを育てる

鶴の木地区の小・中学校の校長先生から、着任のごあいさつ等をいただきました。

東調布第三小学校 井上千壽子校長



はじめまして。四月一日付で校長として着任いたしました。どうぞ

よろしくお願ひいたします。鶴の木駅より徒歩五分の本校は、学区のほぼ中央に位置するといふ恵まれた立地条件にあります。そして、この条件を十分に生かし、歴代の教職員やPTA、地域の皆様方が学校を地域の核として築かれたすばらしい人と人との信頼関係があることを誇りに思います。

嶺町小学校 竹村伸二校長



本校は、「地域ぐるみの子育て」の一翼を担う学校として、保護者

はもちろん地域の皆さんとも連携しながら、「わくわく子どもに、生き生き先生、それを支える温かい家庭に安心地域」をモットーに、学校教育の充実を図っています。地域の方々には、多摩川の汽水域に隣接した本校の特色である「川に学び、川に遊び、川に奉仕する」学習活動の補助や地域安全ボランティアパトロール等、多くの面でご協力をいただいています。また、学校も防災訓練会場として協力したり、地域・PTA行事に積極的に参加協力したりするなど、協力関係を強めています。

大森第七中学校 杉浦克博校長

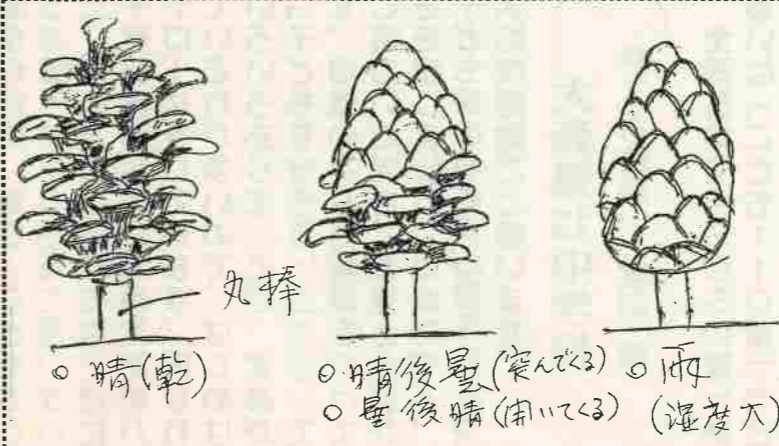


このたび、梅澤彰先生の後任として、本年四月より輝かしい伝統ある大森第七中学校に着任いたしました。着任後、地域の皆様とお会いし、心の温かさ、七中

に対する期待の大きさを感ぜました。子どもは、家庭に生まれ、地域で成長します。学校は地域に存在しますから、地域との密接な連携なしでは子どもへの指導は不可能といってもよいでしょう。生まれ育った鶴の木に根をおろし、社会性を培い、地域帰属意識を養って、将来この鶴の木の地域を育てる人に成長してほしいという事は、学校、保護者、地域の共通の願いです。子どもを中心にして、お互いの持ち味を生かし、連携を図ってまいりたいと思います。

松ぼっくりの天気予報

鶴の木一丁目緑地(松山)の松の木の下に松ぼっくりが多数あります。それを持ち帰り、付け根に穴をあけ三ミリほどの丸棒を差し込み、先端部を上に向け外に出しておきます。そうすると、空気中の湿度の状態の変化により、左の図のように開いたりすぼんだりすることがわかります。



(久保田 健治)

散歩してみませんか

都営地下鉄大江戸線・大門～麻布十番

都営大江戸線沿線の名所・旧跡を、手書き地図とともに紹介します。大門から麻布十番間の寺院を訪ねるなど、歴史を感じながら散歩してみませんか。

さんぽしてみませんか
都営地下鉄大江戸線 大門～麻布十番

芝増上寺 明徳4年(1393)武蔵國豊島郡貝塚(4代田原親興)に創建。慶長3年(1598)に江戸城拡張のため現在地に移転。上野寛永寺と並んで将軍家の菩提寺として知られる。2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂が眠っている。

浅野内匠頭切腹跡 (港区新橋4-31) 跡

芝大神宮 寛弘2年に(1005)伊勢神宮の分霊を祀ったといわれている。芝神明

大門 寛弘2年に(1005)伊勢神宮の分霊を祀ったといわれている。芝神明

尾崎紅葉生誕地

麻布十番 尾崎紅葉(1873-1907)の生誕地。尾崎紅葉の生誕地。尾崎紅葉の生誕地。

赤羽橋

鳥居長世 鳥居長世(1842-1868)の生誕地。鳥居長世の生誕地。鳥居長世の生誕地。

新築組番隊長 沖田総司の墓がある。天保13年-慶応4年(1842-1868)。

専修寺 (元麻布3-1)

鳥居長世の生誕地。鳥居長世の生誕地。鳥居長世の生誕地。

鳥居長世の生誕地。鳥居長世の生誕地。鳥居長世の生誕地。

芝大神宮は、江戸時代に神明と呼ばれ、そのにぎわいは大変なものだった。「男女山をなして群集し、芝居・軽業・曲持ちの門前は押し合い、往来も留まり、名物に風邪予防のショウガ、甘酒、太々餅、加えて宮芝居、勸進相撲、富くじ」とか。

文化二年(一八〇五)、この境内での花相撲に、町火消し・め組の頭の辰五郎が顔で入ろうとして、木戸番に断られたのがきっかけで始まったのが「め組の喧嘩」。

四ツ車大八、水引清五郎九龍山らとの大喧嘩で多数の死傷者が出たこの事件は、講談・歌舞伎の題材となり、江戸っ子の評判となった。

町奉行・根岸肥前守が「鳴り出した半鐘が悪い」として境内の半鐘に縄をかけ、三宅島へ島流しにした、という「喧嘩さばき」のエピソードは、芝居の脚色に影響された俗説らしい。

(水野 敬司)

リレーエッセー

相続く災害のニュースのたび、自然のエネルギーの大きさを今さらのように痛感します。でも、そのエネルギーをいただいで生きていく私達でもあるわけですが、今は故人となった姑に諭されたことがある。雪が降り出しているのに平気な顔をしてお稽古を続けている教室へ入ってきて、「早くお帰りなさい。こんなに雪が降って来ているのに、雪の怖さを知らない人たちは困ったものね」。せっかくのお稽古の時間を、もつたいたいと思いつながら、皆帰路に着いた。確かにその日の雪は幾ヶ所も電車が不通となり、あと一時間も電車が通ずっていたら皆帰宅できなかつたほどだった。一日もかからないうで地球の裏側へ行けるし、メールや電話で即座に意思を伝えることのできる現在、あたかも人間が地球を制しているような錯覚を持ってしまふ。大きな災害ではと気がつく時、自然は太古の昔から同じことをしているわけなのだろうと思う。

鳥も木もわれも
初日のたなこころ
(鶴の木西町会 長門洋)